



# 人口減を見込み更新時に規模縮小 それでも10年で70億円の費用

生活に欠かせない  
最も重要なインフラ  
運営基盤の強化をめざす



いくと10年間で更新する費用は約70億円と見込んでいます。  
**伊藤さん** それでも70億円ですか。とても高くて驚きました。財政的には大丈夫ですか。

## いずれは赤字に 料金体系の見直しも

**管理者** 実は今回の計画には、経営戦略といって、経営面で収支バランスを取るための取り組みも含まれています。窓口業務や、久代浄水場の運転管理業務を民間委託することで職員数を減らしたり、施設を更新するときも、人口減少を見込んでサイズをひと回り小さく作ったりもしています。後々のランニングコストが違いますからね。今後も、効率化、合理化に向けて、さらに業務改善の精査、検討を行っていきます。

でも、計画の財政試算では、そのような取り組みをしても令

和5年度から単年度収支が赤字になる予測になっています。

**伊藤さん** 赤字ですか。そうなら、水道料金を値上げしないと足りないということですか。

**管理者** いえ、赤字になったからといってすぐに水道料金を値上げするというわけではありません。今の条件のままなら、これまでの貯金を取り崩して赤字を埋めていって、計画期間中は値上げをすることは避けられると見込んでいます。

**伊藤さん** 赤字を貯金で払うということですか。料金がすぐに値上げとまらないのは安心しましたけど、将来のことを考えると、それでやっていけるんでしょうか。

**管理者** 先ほど、「今の条件のままなら」と言いましたけど、今回の財政試算には現時点では不確定な要素があります。市内人口の減少ペースであったり、今ちように見直しがかかっている兵庫県から購入している水の仕入れ値がどう変わるかであったり。このため、県の水の料金が決まる令和2年度以降に、もう一度収支計画を見直すことに

求められる経営努力

# 事業の継続

生活する上で最も大切なインフラ管や施設の更新、耐震化には多額の費用  
事業継続には、さらなる経営努力が必要です

## ●料金体系の見直し

水道料金については、より一層の経営の効率化を図り、現状の料金をできる限り長く維持するように努めます。しかしながら、人口減少や更新・耐震化費用の増大により経営に必要な資金を確保できない事が予測されたら、金額、逓増制料金体系（水の使用量が増えれば料金が上がる体系）、基本料金と従量料金の割合の見直しを検討します。もちろん議会をはじめ、使用者の皆さんへの説明責任を果たしていきます。